1954 1955 1956 1957 1958 1959 1960 1961 1962 1963 1964 1965 1966 1967 1968 1969 1970 1971 1972 197

桑沢デザイン研究所

KIDS

学校法人
桑沢学園 桑沢デザイン研究所

教育の趣旨

デザインは物の外面的な装飾であったり、単に、販売促進のための表現であるのでなく、ひとびとの生活の向上のために、視覚伝達や工業生産・生活環境を、より快適なものにしていこうとする造形活動であります。

したがって単なる自己表現というより、生活や社会にかかわる表現であり、デザイナーはデザイン活動をとおして、現代社会や産業に貢献する文明的な使命をもつものといえましょう。

そこで離れ離れになっている〈人間と機械〉〈美術と技術〉〈精神と物質〉を総合して明日のよりよい生活様式や精神風土を創造することがデザイナーに期待されています。

桑沢デザイン研究所の教育は、以上の観点に立脚し、造形感覚や構成力、象徴性や機能性、創造力や技術を身につけ、新しい物の見かたや考え方をつかみ、デザインの基礎と本質を体得することに重点をおいています。そして広い視野と深い教養をもった人として、社会のなかで、デザインをとおして協同し、根強く謙虚に貢献しうる人材の育成を意図しています。

I部 リビングデザイン科
概　要

この科は，ドレスデザインを除く，生産，環境，伝達に関する広範なデザイン諸分野にわたっての専門教育をおこなっています。

1年では，基礎課程として，将来デザイナーになることへの積極的な意欲と資質をもった学生に対して，その潜在する資質をひきだすとともに，学生が自からの能力を開発し得るように教科が組まれ，指導されます。なお，それぞれのデザイン分野の意義や相互関係を知り，自己の適性を判断して将来の方向をきめるための授業もおこなわれ，全科目が必修になっています。

2年では，造形実習をいっそう深めていく一方，グラフィック，インダストリアル，インテリア・住宅の三者から一つのデザインを選んで専攻します。ここでは，1年で開発された創造能力をさらに発展させつつ，デザインを職業とする上で欠かすことのできない技術や理論の学習を通して，専門デザインの理解を高めていくように指導されます。研究科（3年）では，2年までの課程を優れた成績で修了し，なおデザイナーとして意志強固な人を専攻コース別に少数選抜して，専門分野をより深く研究させ，その能力の向上をはかっています。

修業年限は2年ないし3年ですが，デザイン各分野で活躍しているかたがたを教授スタッフに迎え，そこで十余年にわたって検討を続け，実施されてきた授業の内容は，全く研究所独自のものということができます。

I部 ドレスデザイン科
概　要

これからのドレスデザイナーは，私たちの生活のうちでも最も身近な衣生活を，より美しく合理的に向上させていくという役割に加えて，繊維自体をデザインし選別する能力，あるいは，衣服を工業製品として扱い，その生産をディレクトしていく能力などが要求される段階になっています。

当所のドレスデザイン科は，デザインの本質とデザイナーとして必要な広い教養を身につけることを重視し，確かな造形力を把握させることに目標を置くと同時に，特に最終課程では，優れた資質とドレスデザインへの意志のはっきりした学生を少数選抜し，専門の分野を更に深く研究し，将来，服飾界において指導的立場で仕事のできる人材を養成するための，特徴ある教科を組んでいます。

地道に検討された授業内容は，全く研究所独自のものということができます。

1年では，ドレスの基礎技術と平行して，各種のデザインに共通の造形感覚の基礎訓練をおこない，各人の個性をひきだし，観念的な物の見方を打破しながら，新鮮な創意を発揮できるような教育をおこないます。

2年，研究科（3年）においては，基礎理論を展開させたデザインの表現実習や表現技術の学習をとおして，職業人としての能力を高めるとともに，服飾界および繊維界で活躍しているかたがたを招いてその豊富な体験による指導によって，多角的に，ドレスデザイナーに欠かせない素養を深めていく授業がおこなわれています。

リビングデザイン科
1年・2年

1年では，各分野に共通する基礎の学習として，造形の要素を総合した授業をおこない，視覚の法則や発想の方法を与えるとともに，造形感覚をひきだすことによって創造の芽の発育を促し，あわせて初歩的な表現方法の訓練をします。

また，デザインの全体像を正しく認識することで視野を広げ，将来の専門を方向づけられるように，住空間，生活機器，視覚伝達に関する学習を，基礎デザインとしておこないます。

さらに，デザイン活動の広い基盤の総合的な理解と判断をする力，および創造的に思考する能力を養うために理論科目をも重視しております。

2年では，専門デザインの本質を把握するための基礎学習がおこなわれます。

このために，一方では，基本的な造形力に一段と高度な技術練習も加えつつ，基礎造形を充実展開させます。また他方では，視覚伝達，工業生産，生活環境の立場から，ビジュアルデザイン，インダストリアルデザイン，インテリア・住宅デザインの各分野ごとの職業にたずさわる人を育成することを目的として，広範で充実した訓練を重ねるとともに，職業人としての厳しい態度を養います。

なお，この学年での卒業者は短大卒と同程度の資格で就職することができます。

1年科目内容

●構成

構成Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ

●美術

絵画　彫塑

●基礎デザイン

住空間　生活機器

視覚伝達

●理論科目

英語　ゼミナール

現代文明論

デザイン史

2年科目内容

●専攻科目

グラフィックデザイン

（レタリング・印刷概論・写真・パッケージングなど）

インダストリアルデザイン

（製図・表現・材料など）

インテリア・住宅デザイン

（製図・材料・インテリア住宅・家具デザインなど）

●構成・絵画　彫塑　写真

●理論科目

リビングデザイン科
研究科（３年）

２年までを，入学したすべての学生に用意された課程とするなら，研究科は，その中から，優れた資質と積極的意欲をもった学生を少数選抜し，研究生という体制をとりながら，専門分野における各自の能力を深め発展させていく，いっそう厳しい課程であるといえます。

ここでは，各専攻コースごとに，主任教授を中心としてデザイナーや理論家，技術者などの教師のもとで，討議や実習によって研究所独自の課題研究がすすめられます。またいずれのコースにおいても，直接教師の人柄，思考過程，技術指導にふれるとともに，自主的な問題解決の態度や考え方が啓発され，真剣で地道な研さんがおこなわれています。

３年科目内容

●専攻科目

グラフィックデザインの理論と実習
パッケージングの理論と実習
写真の理論と実習
インダストリアルデザインの理論と実習
インテリア・住宅デザインの理論と実習

●共通理論科目

デザイン論

●特別講義，見学，その他

ドレスデザイン科
1年・2年

1年は，ドレスデザインの基礎課程であり，色彩，デッサンなど造形感覚の基礎訓練によって，構成力を高めると同時に，創造的な思考力を養うことを目的とし，理論科目にも重点が置かれています。

またドレスデザインの基礎理論と基礎感覚実習によって，ドレスの配色，形，材質の基礎を体得させ，生活環境の理解と人間工学的研究による衣服の構造を把握させます。

更にデザインの表現技術として，当所が独自に研究した合理的な製図と裁断理論にもとづいた技術の実習をおこない，発想の的確な表現や製作の訓練をいたします。

2年では，基礎造形やドレスデザインの基礎理論および実習を，更に応用面に展開し，デザインの発想練習を重ねて，次第にドレスデザインの具体的方向に焦点をしぼり，各人の個性とみあって創造力を高めるように，充実した内容ですすめられます。

技術の面では基礎製図の発展から，立体の量感を把握するためのモデリングまで指導し，デザインの実際的な表現方法としてこれを習得させます。

また，他のデザイン分野への関心を深め，ドレスデザインの広い活動範囲を認識するための基礎学習をおこなっています。

なお，この学年での卒業者は，短大卒と同程度の資格で就職ができます。

1年科目内容	2年科目内容
●構成	**●構成**
色彩の基礎	平面構成
●美術	**●ドレスデザイン**
デッサン	理論と実習Ⅰ
●ドレスデザイン	表現実習
理論　感覚実習	コスチュームドローイング
技術Ⅰ　製図理論	技術Ⅱ
縫製　服飾概論	基礎製図
●理論科目	応用製図
英語　ゼミナール	モデリング　製作
現代文明論	被服各論
デザイン史	**●理論科目**

ドレスデザイン科
研究科（３年）

研究科（３年）では，２年までを優れた成績で修了し，将来への意志の確かな学生を少数選抜して，研究的な体制のなかで，専門家としての能力を深めます。

いっそう高度な技術を目指す方向とともに，一方では量産デザインの考え方と，方法についてもアプローチします。すなわち，量産のデザインを前提とし，機能性や生産性，素材の把握などに力をおき，それらをデザイン面に展開する造形力・企画力を養います。

これらの授業は，実際に活動しているデザイナー理論家，技術者などを教師にむかえ，直接，教師の人格および思考過程にふれ，技術の指導をうけるなど，厳しい研さんがおこなわれます。

３年科目内容

●専門科目

デザイン理論Ⅱ　デザイン実習Ⅱ
技術実習Ⅲ　表現実習　モードドローイング
モデリング，製作
専門講義

●選択科目

染色　織物

●理論科目

デザイン論

●特別講義，見学，その他

夏
冬 花

教員一覧

昭和44年度現在／ほかに特別講師あり／＊印主任　○印Ⅰ部担当　●印Ⅱ部担当　無印ⅠⅡ部共担当

■理　論

芦原初子 ○ 英語
阿部公正 ○ デザイン論
泉　真也 ● 現代デザイン論
上田修己 ○ フランス語
折橋徹彦 ○ デザイン論、ゼミ
神之村あやめ ○ 英語
香山健一　現代文明論他
佐藤　毅 ○ 現代文明論・ゼミ
鳩田　厚 ○ 現代文明論・ゼミ
島本　融 ○ デザイン史
志水速雄　現代文明論・ゼミ
田島義博　デザイン論
恒川邦夫 ○ フランス語
中川作一 ○ ゼミ
中沢護人 ○ ゼミ
信定宏郎 ○ デザイン史
林　進 ○ 現代文明論・ゼミ他
松谷　彊　デザイン史・原論
三木多聞 ● 近代美術史
村上一郎　デザイン論・ゼミ他
村松仙太郎 ○ ゼミ
山本武利 ○ デザイン論
渡辺慎吾 ○ 英語

■構　成

相場秀夫 ● 構成Ⅰ，Ⅲ
海本　健 ○ 構成Ⅰ・選択構成Ⓒ
郡山　正　構成Ⅱ・選択構成Ⓐ
佐藤邦夫 ● 構成Ⅰ
下村千早　構成Ⅰ・Ⅲ他
須賀敬一　構成Ⅱ・Ⅲ他
高山正喜久　構成Ⅲ・選択構成Ⓑ
田中　淳 ○ 構成Ⅰ
戸村　浩 ● 構成Ⅱ
藤沢典明 ● 構成Ⅰ
真鍋一男　構成Ⅱ
宮沢タイ子　構成
矢野目鋼 ＊ 構成Ⅲ・写真他

■美　術

朝倉　摂＊○絵画他
上野　操 ○ 絵画・コスチューム
ドローイング
大成　浩　彫塑
大谷久子 ○ 絵画
尾崎ふさ　絵画
佐藤忠良 ○ 彫塑
東　千賀　絵画・コスチューム
ドローイング
前田常作 ○ 絵画
米村弥栄子　絵画

■グラフィックデザイン

秋山邦晴 ○ デザイン論
植田理邦 ○ 印刷
上野　誠 ○ 木版実習
遠藤　享 ○ デザイン
岡田徹也 ● デザイン
加藤清美 ○ 銅版実習
川俣正一 ○ 印刷概論
木村希八 ○ 石版実習
楠原義一 ● デザイン他
草刈　順＊○デザイン
後藤英雄 ○ デザイン
小林邦雄 ● デザイン
佐藤敬之輔 ○ デザイン
杉田　豊 ○ デザイン
高松　翼　デザイン

田保橋　淳 ○ 特別講義
田宮督夫 ○ デザイン
原田　勤 ● デザイン
針生一郎 ○ デザイン論
藤原昌美 ○ デザイン
松本俊夫 ○ 特別講義
向　秀夫 ○ 特別講義
森　啓 ● デザイン
薬師神親彦　デザイン
矢沢宏司　デザイン
山口克己 ● デザイン
山本隆太郎 ● 印刷概論
吉川至郎 ● デザイン

■パッケージング

芦原　晋　材料
淡島雅吉　デザイン
奥村恒夫　デザイン
木村　勝 ○ デザイン
古口謙二 ○ デザイン
河野五郎 ● 現代デザイン論
志津野知文　デザイン論
高橋満寿男　デザイン論
灘本唯人 ○ デザイン
山本　茂　デザイン論
横山徳禎　デザイン

■写　真

石元泰博 ○ 写真
伊藤知己 ○ 写真史
湖田登久子 ○ 写真
大辻清司 ＊ 写真
河合玲二 ○ 写真
重森弘淹 ○ 現代写真論
高梨　豊 ○ 写真
英　伸三 ○ 報道写真論
樋口忠男 ○ スタジオ撮影
平野　久 ○ 写真
保積英次 ○ 感光材理論
目島計一 ○ 写真
山田脩二 ○ 写真製版
脇　リギオ ○ カラー写真

■インダストリアルデザイン

秋田穂積 ○ デザイン
鵜飼義一 ○ 材料
魚住双全 ● 表現実習
内村喜之　デザイン他
岡田朋二 ○ デザイン論
小俣紀之　デザイン
金子　至 ＊ デザイン他
喜多智慧夫 ● 製図
寿美田与市 ○ デザイン
手塚敬三 ○ 材料
豊口克平 ○ デザイン論
中村秀男 ○ 材料
ジョセフ薙沢 ○ 表現実習
真水公雍　デザイン
皆川　正 ○ デザイン論
山本孝造　デザイン論他
四本和己 ○ デザイン論

■インテリア・住宅デザイン

秋山　実 ○ 写真
戎居研造 ● 住宅デザイン
遠藤誠之　住宅デザイン
小野美智子　デザイン
小能林宏城 ○ デザイン論
鍵和田　務 ○ デザイン論他
小泉克也 ● 家具工作
佐藤なお ○ 住宅デザイン
篠原一男　住宅デザイン他
白石勝彦　インテリアデザイン
清家　清　住宅デザイン他
高村英也　ディスプレイ
多田美波　照明器具

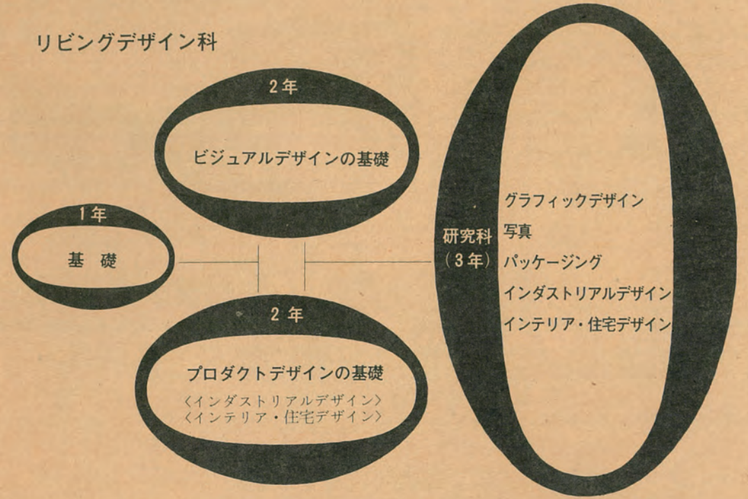
茶谷正洋　プレファブ
土屋義孝　住宅デザイン他
中村圭介 ○ 家具デザイン
早川　登　家具工作
林　哲也 ● インテリアデザイン
林　雅子 ○ 住宅デザイン
原　広司 ○ 特別講義
原　好輝 ● 家具デザイン
福島保信　デザイン
藤森健次 ○ ファブリック
堀　英夫 ○ 建築金物
村松貞次郎 ○ 特別講義
山川　譲 ● 家具工作
山口勇次郎＊○家具デザイン

■ドレスデザイン

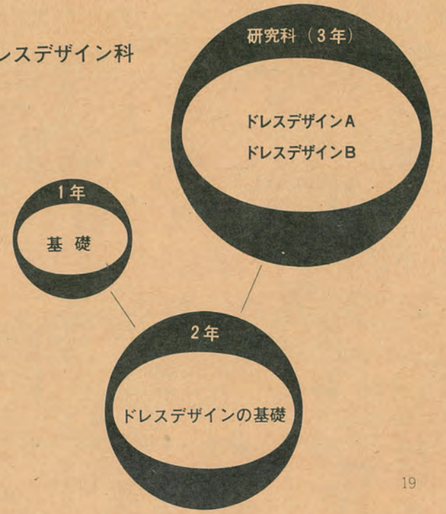
安倍和重 ○ 特別講義
飯塚春次郎 ○ 縫製技術
五十嵐都美 ○ 技術
石田恭一 ○ 特別講義
伊東真紀子 ○ デザイン
海本小織 ○ パターン
大空淑子 ○ モデリング
小川安朗 ○ 被服概論
小川洋子　デザイン
川合　優　デザイン
北岡幽子 ○ デザイン
国方澄子 ○ モデリング
桑沢かね子 ○ 技術
桑沢洋子　デザイン他
根田みさ　デザイン
近藤　英 ○ 染色他
近藤百合子 ○ デザイン
斉藤　睦 ○ デザイン
笹原紀代 ○ 特別講義
佐藤みさ子 ○ デザイン
塩谷智子 ○ 特別講義
鈴木栄三郎 ○ 特別講義
相馬二美子 ○ デザイン
田実栄子 ○ 被服各論
谷　長二　被服各論他
谷　二三　デザイン・製図
丹野　郁 ○ 服装史
塘　和夫 ○ 被服各論他
礪波宏明 ○ 染色化学
土肥悦子 ○ 織物
豊田高代 ○ デザイン・製図
中島道子　デザイン他
中田幸平 ○ 被服各論
野末和志 ○ 染色
塙　経亮 ○ 技術
原田二郎 ○ 服装史
平田暁夫 ○ モデリング（帽子）
福村千英子 ○ デザイン
前田晃子 ● デザイン
蓑輪豊子 ○ デザイン
宮内　裕 ○ モードドローイング
村田文子 ○ デザイン
本吉春三郎 ○ 被服各論
森　妍子 ○ デザイン・手芸
諸岡美津子　デザイン・製図
柳沼恵美子 ＊○デザイン
矢島　功　モードドローイング
柳　悦孝 ○ 織物
山本良子 ○ 被服材料
横山雄一 ○ デザイン
四本貴資 ○ 染色

I部（昼間部）の構成

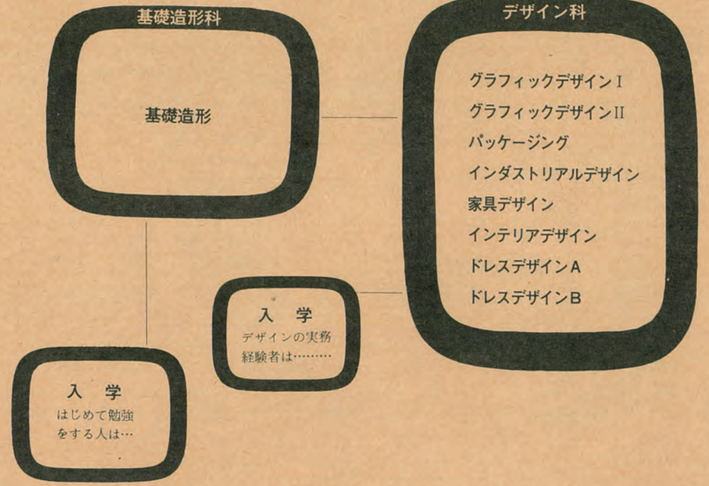
リビングデザイン科



ドレスデザイン科



II部(夜間部)の構成



II部(夜間部)の概要

II部（夜間コース）には，大別して基礎造形科とデザイン科があります。基礎造形科は，既成の造形概念や技法にとらわれることなく，発想，および事物を正しく見，判断することの基礎を習得し，創造の芽を培うことを目的としています。デザイン科は８つのコースに分けられ，専門分野に不可欠な基礎理論と技法を学ぶとともに，デザインの諸問題に考察を加えながらそれらに対処し，実務の幅を広げていける能力や知識を養うことに目的を置いています。

また学生は，年令や学歴，経験の異る人々，あるいはデザイン経験の有無など，実に多彩であり，このような特殊性を十分に考慮して授業が組まれています。両科とも修業年限は１年間ですが，２年ないし３年間にわたって履修することもできます。

基礎造形科
概　要

基礎造形科は，広範囲な造形活動における，造形感覚や構成力を体得することを目的とし，そのための授業科目として，構成，美術，基礎表現実習，理論科目の各教科によって組立てられています。

構成では，各造形要素の学習をとおして，造形思考を拡充させ，視覚の法則や発想の方法を与えるとともに，形態表現の基礎的力を養います。また各種の用具や材料を体験することで個性の表現に導き，創造の萌芽を促します。美術では，絵画および彫塑を行ないますが，ここでは，自然の形の成り立ちをつぶさに見つめ，形の中にある力の相互関係や空間的広がりを正しく把握し，表現することによって，ものを見る確かな眼と描写力の調練を行ないます。基礎表現実習は，デザイン専門の分野で必要とされる表現技法の初歩，およびデザインの概括的な知識について学びます。理論科目は，デザイン活動の広い基盤を理解するために，４科目が置かれ，いずれも選択必修科目となっています。

授業は，毎日午後６時から９時まで行なわれ，内容，時間とも夜間の学生にとっては相当厳しいものですが，将来専門を志す人はもちろん，現在デザインの仕事に就いている人にとっても，概念にとらわれない新鮮な感覚や，発想の基礎を身につけるには最適のクラスであるといえましょう。

基礎造形科科目内容

●構成

構成Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ

●美術

絵画　彫塑

●表現実習

製図　レタリング　コスチュームドローイング

●造形理論

造形原論　近代美術史　造形社会学　造形心理学

デザイン科
概　要

Ⅱ部デザイン科は，すでにデザインの基礎を習得し，さらに専門家を志して，そのための技術と知識を深めることを望んでいる人，あるいは現在デザインの仕事に就いていて，その新たな展開を望む人を対象に設置されています。

デザインも，ようやく，産業界や生活の場に定着しつつあるという時点にさしかかっています。またデザインの本質や，機能とか目的が，段々に明確にされてくるにつれて，デザイナーの能力に対する期待や要求も厳しくなってきています。

デザインは，現代文明を形成する責任の一端を担っています。それだけに，技術革新と相まって急速に進歩する産業界や，それとともに目まぐるしく変貌する社会や生活環境から受ける影響も著しく，新たに開かれた局面にも十分対処していかなければなりません。

従って，今後デザイナーが学ばなければならない技術や知識は，益々多岐にわたって，深さとともにその数も増えてくるでしょう。そして，それらを基礎としながら，既成の概念にとらわれずに発想し，思考する訓練を重ねることによって，自己の創造性を再開発していくことが大切です。

デザイン科は，グラフィックデザインⅠ，グラフィックデザインⅡ，パッケージング，インテリアデザイン，家具デザイン，インダストリアルデザイン，ドレスデザインA，ドレスデザインBの各コースに分れていますが，いずれも前述の考え方から，今後のデザインに不可欠な創造の能力を与えることに目標を置いています。また目的によっては，２つのコースを併修することもできます。

なおこの科は，デザインの実務経験をもっている人達，あるいは当研究所基礎造形科または他校においてデザインの基礎を学んだ人でなければ入学資格はありません。

デザイン科
グラフィックデザインⅠ
コース

このコースは，グラフィックデザインを学ぶうえに必要と考えられる基本的な諸問題について，それを理解するための能力とデザインの諸要素を視覚的に表現するための能力を育成することを目的として，授業がおこなわれます。

将来，グラフィックデザイン関係の分野を志す人をはじめ，グラフィックデザインに限らず，視覚的な表現方法を用いる分野——例えば，パッケージデザイン，ディスプレイデザインなどを志す人，あるいは実務経験者についても，このコースでおこなう基本的な科目を学ぶことは有効であるといえましょう。

グラフィックデザインの基本的な学習には，文字的な表現方法と，絵画的な表現方法があります。

文字的な表現方法では，日本字や英字のレタリング，活字印刷などの可読性についての研究，活字や文字の組合わせによる視覚的な表現を研究します。一方，絵画的な表現方法としては，シンボル，マークなどの造形性についての考え方とその表現方法，描写力の訓練，色彩構成による感覚練習，印刷方式を応用した色彩の表現方法などがあります。

その他に印刷概論，デザイン論などの講義もおこなわれます。

このコースに入るには，Ⅱ部の基礎造形科でおこなっている造形に対する基本的な感覚訓練と，技術練習などの課程を修了するか，または他の学校などで，これらと同程度の訓練を受けていることを前提とします。

将来，グラフィックデザインを専門的におこないたい人は，このコースで基礎を履修したのち，グラフィックデザインⅡのコースを履修するとよいでしょう。

■科目内容

タイポグラフィ
シンボル
描写表現
色彩構成
現代デザイン論

デザイン科
グラフィックデザインⅡ
コース

グラフィックデザインⅡのコースでは，主として，広告・編集・装幀関係のデザインを希望する人に適したコースといえましょう。このコースへの入学資格としては，Ⅱ部の基礎造形科と，グラフィックデザインⅠのコースを修了した程度の，デザインに関しての基本的な，造形感覚と表現技術を持っていることを前提とします。

授業は大別して，アドバタイジングデザインとエディトリアルデザインについておこなわれ，それぞれのデザインについての意味を正しく把握すると同時に，その表現能力を育成します。

アドバタイジングデザインは，現代社会のグラフィックデザインの中では，大きな比率を占めています。そのために，この種のデザインを志す人は，デザインについての正しい認識を持ち，広告について，的確なコミュニケーションをおこなうための鋭い感覚を持つことが必要です。この考え方にもとづき，授業がすすめられます。

ジンボル・トレードマーク・ロゴタイプなど，企業を想定した基本的なデザインから始まり，カタログ・雑誌広告・新聞広告・ポスターなどのデザインについて適切な指導がおこなわれます。

また，エディトリアルデザインでは，雑誌や単行本など書籍類に関しての編集方法，装幀や文章，写真などのレイアウトについて基本的知識を修める実習をおこない，タイポグラフィによる造形的問題なども研究します。こうしてエディトリアルデザインについての諸問題を，総合的に理解し，発展させていきます。

■科目内容

アドバタイジングデザイン
（シンボル・マーク・ロゴタイプ・雑誌広告・新聞広告・ポスターなど）
エディトリアルデザイン
（タイポグラフィ・装幀・レイアウトなど）
現代デザイン論

デザイン科 パッケージング コース

このコースは，パッケージングに関係のある仕事を専門にしていきたい人や，現在パッケージングのデザイン，各種技術および関連する仕事にたずさわっている人を対象としています。

マーケティングの一環として，とくに重要視されているパッケージングは，日常生活に密着し，欠くことのできない重要なものとして，その位置を占めております。

パッケージングは分類上，工業資材・機械器具・精密機器などの工業製品を輸送するに当っての保護や，保管を中心とした輸送パッケージと，広く消費者を対象として，大量に生産され，大量に販売される飲食品・薬品・化粧品・洗剤・衣料品・日用雑貨類などの物品の保全と，商品としての促進効果を合わせもっている販売パッケージとに分けて考えることができます。

このパッケージングコースでは，販売パッケージにおけるデザイン，および関連する各種の作業をすすめる上で必要とされるデザインの基礎はもちろん，内容物の明示と，販売を促進するために必要な，表面デザインの演習を中心に授業がすすめられます。

一方，内容物を衝撃などの外的条件から保護すると同時に，消費者が使用するに当っての便利性も考慮する，いわゆる構造・機能についても，それに付随させ，発想から定着に至る演習もすすめます。また，表現上必要とされる材料技術，デザイン理論などについても，これらと平行させて行ない，要素的になることを避け，総合的かつ効果的な授業をすすめていきます。

限られた時間の中で，単なる知識としてではなく，機能面と造形面を関連させ，手を動かしつつ問題を把握，展開していきます。その中で解決点を見出し，豊かな発想と表現力を習得することを目的としています。

■科目内容

パッケージデザイン
パッケージング論
材料概論
現代デザイン論

デザイン科 インダストリアルデザイン コース

このコースは，工業デザインや家具デザイン，その他立体デザインの業務にたずさわっている人を対象に，主としてデザインの表現力の習得を目的としたコースです。

工業デザインにおける表現技術の役割には，第1に発想を正しく形に表わし，デザインに定着させていく作業の効果を高めるものであること，第2に完成したデザインをいろいろな立場の人々に的確に伝達できるものであること，第3にデザイン管理が合理的におこなわれ，生産の能率化をはかることに役立つものであること，という3点が考えられます。そして，その技法や，伝達，保存のための手段として，製図，スケッチ，レンダリング，モデル，仕様書，報告書，管理法などをあげることができます。

これまでこうした技法や手段は，他分野のものを固定的に踏襲している傾向がありましたが，今後，産業の中でのデザインの立場や役割からみれば，これは決して十分な方法とはいえません。

ここでは，主としてデザイン製図とレンダリングを中心に授業をおこないますが，単にそれぞれの技法の上達を目指すというばかりでなく，前述した表現技術の役割を考え，それに即した技法の習得を目的としてすすめます。そして課題には，具体的デザインをテーマにとりあげ，その発想から完成に至る各段階に応じて，造形，技術の両面にわたるデザインの内容を，客観的に正しく第三者に伝達するための技法を学びます。

工業デザインを専門とする人はもちろん，パッケージングや家具デザインなどにたずさわる人にとっても，表現力を高めるのにふさわしいコースです。

なおこのコースに入るには，第三角法正投影図法および透視図法の理解と，描図する力が必要です。

■科目内容

デザイン製図
レンダリング
デザイン
現代デザイン論

デザイン科
家具デザイン
コース

このコースは，現在家具関係の仕事をしている人や家具関係の仕事を専門にしていきたい人および基礎造形科を修了した人を対象としています。

このコースの目的は，建築よりもより人間とじかにふれあい，建築と人間活動との接触点におかれる道具である家具を，ひとつは人間の行動寸法，生産方式，経済性，市場性，空間とのあり方などからの追求と，ひとつはプロポーション，材料，構造，加工技術，形などの造形面からの追求とを関連させながら授業をすすめます。現在私達が身近かに接するハーマンミラー，ノル，アスコなどといった量産家具のデザインの水準の高さは，わが国のその分野における研究不足を感じさせます。ですからこのコースの指導の中心もマスプロダクションにおける家具デザインにおかれています。

科目は，家具デザインと，家具工作の２科目にわかれています。

家具デザインは，年間３～４課題により具体的なデザインを進めますが，人間と物とのかかわりあいといった広い範囲の問題を含めて研究し，その処理方法を考え，デザインを生産に移行させる技術を検討，追求し，個人の発想が的確に製品としての家具として完成させる過程を理解し，把握します。課題においては，個人が各自それぞれの発想と思考で進める場合と，共同で進める場合とがあり，それぞれに応じた指導がなされます。

家具工作は，家具デザインにおける一般的知識に対する講義による授業で，内容は，家具構造，木材とその加工技術，金属とその加工技術，プラスチックとその加工技術，籐，竹とその加工技術，塗装の講義が，行なわれます。

■科目内容

家具デザイン

家具工作

（家具構造・木材と加工技術・金属と加工技術・プラスチックと加工技術・籐，竹と加工技術・塗装）

現代デザイン論

デザイン科
インテリアデザイン
コース

このコースは，現在インテリア関係（建築，家具など）の実務についている人や，インテリア関係の専門的な実務経験が一年以上の人および基礎造形科の課程を修了した人を対象としています。

このコースの目的は，住宅やオフィスなど人間が生活する内部空間とその環境とのあり方を，広い視野からの授業をとおして把握し，創造することにあります。たとえば，人間の行動寸法と空間の必要量，使用上の諸条件と空間設定，使用者の心理などといった機能面からの追求と，空間のプロポーションや，空間を構成する材料，テクスチュア，色，光などを総合した造形面からの追求，および家具やその他の可動な設備，厨房や冷暖房，給排水，空調などの不動な設備についての知識とを関連させながら，発想から完成までを具体的なデザインをテーマとして研究します。

科目はインテリアデザインとインテリアエレメントの２科目にわかれています。

インテリアデザインは実習科目で年間２～３の課題によって授業が進められます。課題は具体的なインテリアデザインを各自がそれぞれの発想と思考により自主的に追求します。その実習指導は，各個人個人に応じて行なわれます。指導においては，その課題に対する思考過程に重点がおかれます。課題の提出は各個人の能力に応じた表現方法がとられますが，客観的な的確な表現が求められます。

インテリアエレメントは，インテリアデザインの一般的知識に対する講義による授業で，その内容は，インテリアファブリック，インテリアエンジニアリング（設備，照明など）建築一般構造などが行なわれます。

■科目内容

インテリアデザイン

インテリアエレメント

（家具概論・インテリア　ファブリック・インテリア　エンジニアリング・建築一般構造・ディスプレイ）

現代デザイン論

デザイン科
ドレスデザインA
コース

このコースは，現在ドレスデザイン関係の実務についている人を始めとして，服飾関係の専門的な仕事の経験を1年以上持つ人，および当研究所の基礎造形科の課程を修了した人を対象として置かれています。

このような人々が，更に専門的な知識とドレスデザインを学ぶうえに必要とする基本的な諸問題について，それを理解するための能力と，視覚的に表現できる力を育成することを目的としています。

現在の服飾産業において，一品製作としての個のものから，既製服という量産デザインまでの巾ひろい分野に対応しうる教育システムを目標として，実習および講義が行なわれます。

授業の内容としては，生活環境と衣服，衣服の種類と性格など，基礎から応用面への表現実習を重ねて，各自のデザイン感覚や発想力を高めるとともに，それらを表現し，ドレスデザインに定着させ，的確に伝達できるものにします。

一方，表現技術のトレーニングとして，とくにコスチュームドローイングをとおして，デザイン画としての表現力を養い，同時に衣服の構造理論などが立体との関連性における重要な基礎がためとして，加えられています。

また各専門分野の講師による服飾デザイン論，流行の変遷などが専門講義として，実習と平行して行なわれます。なお，広くデザイン各分野にわたる講義もあわせ行なわれます。

■科目内容

ドレスデザイン
コスチュームドローイング
デザイン論
現代デザイン論

デザイン科
ドレスデザインB
コース

このコースでは，現在ドレス関係の実務についている人や，服飾関係の学校で1年以上の課程を修了した人および基礎造形科の課程を修了した人を対象としています。

このコースの特色は，近年とくに既製服業界などで重要視されてきたパターン（型紙）の作図法に重点をおき，人体の構造と機能面を考慮した原型パターンを活用して，能率的な作図法を主に実習授業を行ないます。更にデザインを的確に立体に表現する技術能力を高めるため，衣服の形態，量感，素材，構造などの把握が必要とされ，平面作図と平行させながら，ドレーピング（立体裁断）とモデリングの表現実習も行ないます。

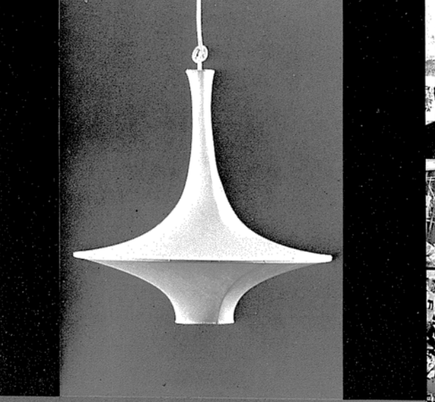
短い期間のなかで，作図の基本的な考え方と，基礎から応用面へのトレーニングをとおして，実社会の仕事に応用できる人を育成することを目的としています。

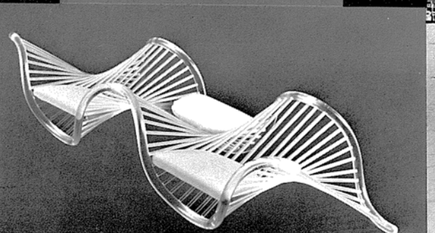
科目は，ドレス作図とモデリング，デザイン画の3科目にわかれています。

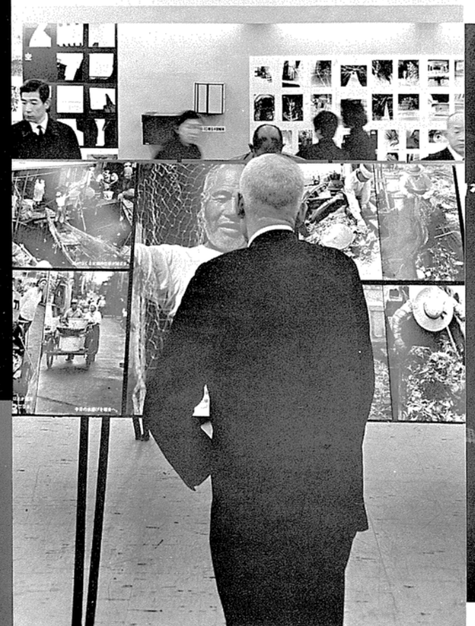
ドレス作図は基礎作図の理論と実習から応用面に展開させ，ドレーピングの初歩とグレーディングの実習，モデリングは前期に平面作図の裏づけとしてのディテール，後期では各自がそれぞれのテーマと条件設定によって，発想と思考にもとづいてデザインしたものを造形的に追求しながら，立体に表現する作業をすすめます。デザイン画は，初歩の技法としてのデザインの表現伝達に必要な基礎技法の実習が行なわれます。

■科目内容

製図
モデリング
現代デザイン論

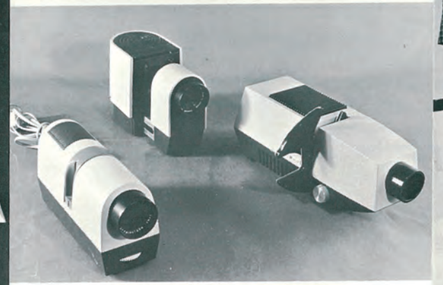






Technical colors for creator Holbein colors
holbein HOLBEIN WORKS LIMITED

mode shop
ROND
mode shop



就　職
就職先

かつて就職していった多くの卒業生達は，さまざまな試練に耐え，自からの能力を立証するために，一生懸命の努力を重ねています。この努力がむくわれるかどうかは，本人の能力に負うところが一番ですが，選んだ職場がその人の能力に適していたかどうかということも大きく作用します。

卒業時に「無事」を願って，良かれと思って選んだ職場が――これは組織がよく整っていて，そこでいろいろ勉強させて貰いながら仕事ができる，と期待している場合が多い――必ずしもそうでないこともあります。そして，当然その逆の場合もあります。

新しい環境に入るということは，たとえどれ程の予備知識を持っていたにしても，多くの未知の事柄にぶつかることだと思わなければなりません。ここに，未知の事柄に賭けるという勇気が必要になってきます。自からの能力をよく認識し，それによって将来に賭ける勇気をもって，職場を選んでいる人達の場合「平穏無事」とはいえなくとも，「活気」に満ちた仕事をしています。学校とは，単に知識や技術のみ習得するところではなく，こうした力もまた培うところでもあるのです。

当研究所での就職斡旋は，法に決められた規則に従って，就職係でおこなっています。その規則のひとつに，斡旋できる職種として「デザイナー，もしくはデザインに関係ある職種」という定めがあって，これ以外の職業の斡旋はおこなっていません。この職能が近年益々多岐にわたり，その幅を広げつつあるところから，求人数も増加しています。これも先輩諸氏の職場での努力にあずかるところが非常に大きいのですが，これから就職していく人の場合，単にこの努力のおこぼれを頂戴するということであっては困ります。

時が移れば環境も変化します。かつての温床も，温床ではなくなっているかもしれません。そうした中に入っていくのが就職です。この場合，他の何かに依存するという気持は持って貰いたくありません。

たとえ入学時は，漠然としたデザイナー像による将来計画であるとしても，入ってからは，自分をよく見つめた上で，将来を計画できるように努力してほしいものです。

※各科の卒業生は労働省認可の桑沢デザイン研究所無料職業紹介所によって就職できます。

繊維会社	厚木ナイロン・市田・鐘ケ淵紡績・倉敷レイヨン・倉敷紡績・帝人・日本エクスラン工業・日本レイヨン・丸増・三菱レイヨン・吉忠・ レナウン商事ほか
既製服会社	相原幼児・岩島・岡村・櫻山オンワード・キャラバン・コマンド・近藤商店・鈴屋・杉浦商事・チャイルド・ツバメコート・内外編物・花咲繊維工業・馬里邑・三紫・レナウンルック・ワコールほか
百貨店	伊勢丹・小田急・京王・小松ストア・三愛・西武・そごう・大丸・高島屋・タカノ・阪急・松坂屋・松屋・三越ほか
建築会社・建設会社	清水建設・竹中工務店・日本住宅公団ほか
家具会社	荒川家具・青島商店・岡村製作所・コスガ・天童木工・鳥取家具・日本ホームス・富士装備・フランスベッド・三越製作所・三好木工・山川ラタンほか
展示・装飾・室内施工会社	丹青社・及村工芸社ほか
建築設計事務所	芦原義信事務所・菊竹清訓研究所・小川洋設計室・黒川紀章事務所・坂倉準三研究所・設計同人・設計連合・店舗建築研究所・前川国男事務所・柳事務所・連合設計市ケ谷事務所ほか
デザイン事務所―ＩＤ・インテリア・家具	インターナショナル工業デザイン事務所・ＫＡＫ・カーターアート・剣持デザイン研究所・ＧＫインダストリアルデザイン研究所・匠デザイン事務所・ＴＡＬ室内デザイン事務所・豊ロデザイン研究所・中村長沢デザイン事務所・藤森事務所・皆川デザイン事務所・山ロデザイン事務所・祿デザイン事務所ほか
デザイン事務所―グラフィック・パッケージング	伊藤憲治デザインスタジオ・オカスタジオ・亀倉雄策アトリエ・スタジオユニ・田中一光デザイン室・東京グラフィックデザイナース・東京デザイン・ニュー工業デザイン研究所・日本デザインセンター・パッケージングディレクション・増田正デザイン研究所・ライトパブリシティほか
写真スタジオ・研究所	杉山写真研究所・ジーチーサンほか
洋裁店・服飾アトリエ	宮内アトリエ・諸岡モードサロンほか
製造会社	オリンパス光学工業・関東自動車・クラウン・興国化学・小西六写真工業・コビト・三協精機・サントリー・ソニー・大協パッケージ・タクト電機・東芝・トリオ・中道研究所・日本光学・日本コロムビア・日本デキシー・日本ビクター・日立製作所・富士通・富士電子工業・不二家電機・本田技研・本州製紙・松下電器・三菱鉛筆・八欧電機ほか
広告代理業	オリコミ・協同広告・第一広告・電通・東急エージェンシー・博報堂・読売広告ほか
印刷会社	共同印刷・大日本印刷・図書印刷・凸版印刷・日立印刷ほか
出　版　社	家の光・旗島出版研究会・玄光社・講談社・三省堂・ジャパンインテリア・主婦の友・商店建築・小学館・ダイヤモンド社・白水社・美術出版・婦人画報・婦人生活・文化服装学院出版局・平凡社ほか
映画・演劇―衣装・装置	東宝・東京放送・東映動画・日生劇場・日本短波・日本テレビ・日本放送協会ほか

沿　革

創立にさきだつ10数年以前より，桑沢所長は自身のデザイン活動をとおしてデザイン各分野の総合的な専門教育，およびそれらの基礎教育の重要性を痛感していました。このような所長の理想と情熱に共感した現教授の方々の協力をえて，桑沢デザイン研究所が設立されました。

昭和29年４月――東京都港区青山に桑沢デザイン研究所を設立〈所長　桑沢洋子〉

昭和32年12月――学校法人　桑沢学園　桑沢デザイン研究所となる

昭和33年４月――校舎を現在の渋谷区に新設し移転

昭和35年４月――第一次増築

昭和36年12月――第二次増築

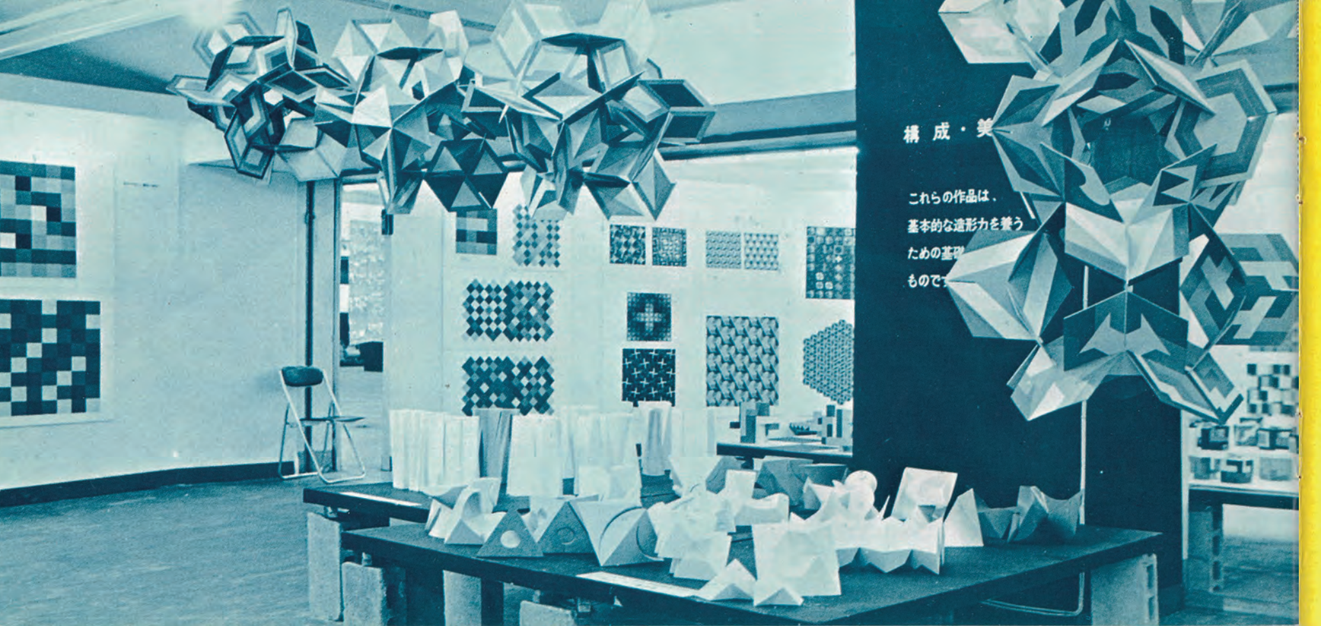
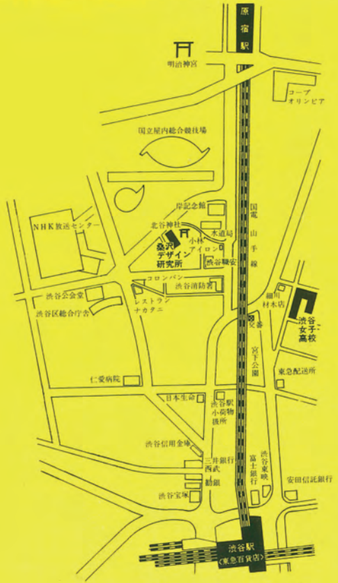
昭和38年10月――桑沢学園　桑沢デザイン研究所創立10周年記念行事

昭和41年４月――学校法人　桑沢学園（東京造形大学）開学〈学長　桑沢洋子〉

昭和43年３月――第三次増築

昭和43年６月――桑沢学園　桑沢デザイン研究所創立15周年記念行事（記念講演会）

理事長・所長――桑沢洋子



桑沢デザイン研究所　1970　　発行　学校法人　桑沢学園　桑沢デザイン研究所——東京都渋谷区北谷町32　郵便番号150
電話　東京（03）463—2431　　編集　桑沢デザイン研究所1970編集委員会　〔9811—12T〕